



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



洗礼の恵みに気づき、それを生きよう(7)

2024年 年間目標

鹿兒島教区司教 中野裕明

教区の皆さま、お元気で
しょうか。今回は「ゆるし
の秘跡」についてお話しし
ます。

キリスト信者にとつて
「ゆるしの秘跡」は頭では
理解していても、いざ実行
するととなるとかなりの心理
的プレッシャーがあること
は確かです。司教である私
も例外ではありません。む
しろ、「ゆるしの秘跡大好
き」という人がいらしたら
「その人大丈夫かな」と思
ってしまいます。

先ず、ゆるしの秘跡の実
践に当たり、「何をゆるし
てもらおうのかが分からな
い」ということがあります。
スコラ哲学(カトリッ
クの哲学)の一つの命題
に、「人は考えたように行
動するのではなく、行動し
たように考える」というの
があります。「私たちは自
己本位に生きていて自分の
行動は自己肯定であるか
ら、それを否定するのは難
しい」ということです。

2番目に、日本人の一般
的感性では、いわゆる「罪」
と「犯罪」が混同して使われ
ることがあります。

ある20代の声楽家が、優
勝のご褒美で1年間のイタ
リア音楽留学をしました。

その際、女子修道院に無償
で滞在したのですが、そこ
で、シスター方と彼女との
間で次のような対話がなさ
れたそうです。

「あなたは、日本人です
か？」

「はいそうです」

「カトリック信者ですか？」

「いいえ、違います」

「では洗礼を受けなければ
いけませんね」

「え？ 何故ですか？」

「あなたは罪人だからで
す」

「え？ 私は警察に捕まる
ような事は一切していませ
んけど」

この問答で、彼女は憤慨
し「自分は一生洗礼なんか
受けるものか」と意を固め
ました。後日談ですが、そ
れから40年後、定年退職を
機に彼女は洗礼を受けたそ
うです。

このように、「罪」と
「犯罪」は混同されます
が、両者の違いは以下のよ
うです。

「犯罪」は法律に反する
行為で、人間の行為として
表面化したものに限りま
す。原初的には「神の十
戒」(モーセの律法)があ
ります。

神の十戒は元来、「十個

の神のことば」という意味
ですが、その神の意思を厳
格に遵守するために細かい
法律を作ったユダヤ教で
にしているのがユダヤ教で
す。律法学者やファリサイ
派の人たちの生きざまは、
福音書の中に見られます。

教区修道女連盟が総会と研修 新会長に澤ヤエ子修道女

教区修道女連盟の総会と
研修会が6月2日(日)、
教区本部とザビエル教会で
あった。出席したのは本土
約40人。

地区の修道女たちを中心に
10時30分から教区本部で
あった総会では、昨年度の
活動と決算報告、今年
年度の活動計画と予
算案についての検討
が手際よくなされ、
その後役員改選があ
った。改選の結果、
新会長にレデンプト
ール宣教修道女会の
澤ヤエ子修道女が、
またこれまで会長を
務めた純心聖母会鹿
児島修道院の宇田美
智枝修道女は、副会
長となった。

総会後は研修会が
実施され、教区修道
女連盟鹿兒島地区顧
問司祭の小隈憲士神



小隈神父の講話で赦しについて研修する

父(ザビエル教会主任)
が、ウクライナやガザ地区
での紛争などを取り上げて
「赦すこと」をテーマに、
その赦すことの大切さとそ
の難しさについて講話し
た。

研修会後は、ザビエル教
会主聖堂でミサがささげら
れ、集いを締めくくった。

7月6日(土)に14時と
17時の2回、事務局による
講座説明会もある。
詳しくは代表の山口寛子
さんまで(TEL090-111
62-7372)。

2024年度 カウンセリング講座日程

回	月	日	曜	講師	内容
	7	6	土	事務局(説明会)	14時・17時の2回
第1回	7	13	土	中野裕明司教	共に歩むために I
第2回	7	20	土	大坪治彦先生	カウンセリングの基礎知識 I
第3回	8	3	土	大坪治彦先生	カウンセリングの基礎知識 II
第4回	8	31	土	シスター澤	子どもと女性の人権についてI【公開講座】
第5回	9	7	土	有倉巳幸先生	職場の人間関係等
第6回	9	14	土	山口寛子先生	子どもと女性の人権についてII【公開講座】
第7回	9	21	土	今林俊一先生	家族の人間関係
第8回	10	5	土	今林俊一先生	青少年の心理
第9回	10	12	土	大坪治彦先生	よい聴き手となるために I
第10回	10	19	土	大坪治彦先生	よい聴き手となるために II
第11回	11	9	土	大坪治彦先生	よい聴き手となるために III
第12回	11	16	土	大坪治彦先生	よい聴き手となるために IV
第13回	11	30	土	事務局	電話カウンセリングの実際
第14回	12	7	土	中野裕明司教	共に歩むためにII修了式・認定式
第15回	12	14	土	事務局	新人オリエンテーション

7月から カウンセリング講座

鹿兒島きぼうの電話主催
のよりよい人間関係構築に
役立つ「カウンセリング講
座」が7月13日に開講す
る。これまで金曜日の夜に
開かれていたこの講座だ
が、受講者の多くが女性で
あることなどを考慮し、受
講しやすい時間帯に移さ
れることになった。

開講は土曜日で、時間は
14時から2時間となってい
る。場所はこれまで通り、
教区本部(鹿兒島市照国町
13-42)2階会議室。受講
資格にも変更はなく、20歳
以上なら誰でも受講でき
る。また講座修了者は鹿兒
島きぼうの電話で電話を受
ける相談者になることもで
きる。受講料は、全15回で
1万円。

鹿兒島訪問のレデンプトール宣教修道女会総長 ウクライナの現状と支援活動を報告

4月下旬、姉妹共同体訪問のため鹿兒島を訪れたレデンプトール宣教修道女会の総長テオドラ修道女は各地で講話、ザビエル教会であった「語る会」でもウクライナの現状と支援のための働きを紹介した。教区報ではテオドラ総長の報告を紹介する。

個人的な底に触れる戦争が始まって最初の数週間、私にとって一番怖かったのは、不安感が持続し、無力感が増していくことでした。

日常生活は根こそぎ奪われ、状況をコントロールすることはもはや不可能だったのです。昼夜を問わず、屋内でも屋外でも、私たちは不安からくる緊張を目の当たりにしました。

薬局では多くの医薬品が不足し、爆撃の危機を知らせるために夜間、サイレンも頻りに鳴り響きました。安全の喪失は、「私たちの修道院の建物は生き残れるのか？ 私たちは命を守ることが出来るのか？」という物質的なレベルだけでなく、感情



4月30日のシスターテオドラと語る会

その瞬間、信仰の経験はまったく新しい形で私に触れられました。十字架につけられ、復活されたイエスの存在のあふれる部分—信じられ、疑う部分—を満たしているのを感じました。その日、私はまったく新しい安心感を得たのです。私の恐れと無力感は、救い主の安

的、精神的なレベルでも感じられました。それは「無感や恐怖といった重い感情を抱えた自分自身や他人を助けることができるのだろうか？」、「まったく神の働きではないように見える状況の中で、神への信頼を失わないことは可能だろうか？」などでした。

ある日、とても不安だったとき、この安心感の喪失と無力感の原因に気づいたような気がしました。私は長い間、私のそばにあったある感情に焦点を当て、その中に私の主な恐怖、つまり死への恐怖を認識したのです。私は逃げ出さず、彼(神)の後を追うことにしました。「死は私の敵ではなく、私の運命を決める力はないのだ」と短い時間で悟りました。

全の中に逃げ場を見つけた。この劇的な時期に、これが私の、そして私たちの唯一の安全であることに気づいたのです。これが、戦争中に私が経験した個人的な平和の始まりです。私の最初の、そして最も重要な仕事は、この内なる平和を何としても守り、戦争という恐ろしい体験の中に可能な限り持ち込むことだと悟りました。

私たちの存在のために戦うことを諦めてはいません。静かな地域であっても、国中に戦争の痕跡を感じる事ができます。私たちのシスターたちの活動は、子どもたちや若い人々への支援活動、また特に被害の大きかった人たちの心理的支援ですが、戦況の影響は大きく受けています。

現在、私たちには3つの「プロジェクト」があります。一つはウクライナ北部のチェルニヒフでの子どもたちや若者たちとの活動です。ここは2022年3月の戦争開始時に多くの爆

撃を受け、破壊されたところです。現在は比較的落ち着いています。シスターたちがレデンプトール会の神父たちとともに企画するさまざまな活動には、多くの子どもたちが集まっています。シスターたちは、夏に子どもたちと青少年のキャンプを計画しています。

イグナチオの霊操 ⑬

紫原教会主任司祭 貴島丈弥

第2週

第1週の罪の黙想で涙の恵みをいただいた後に、第2週へと進みます。第2週からお礼を申し上げます。ウクライナの現状はメディアでご存知のことと思います。現在、非常に困難な状況にあり、解決の糸口は見えていません。しかし、私たちは祖国を守り、自由のために、そして実際、私

第1週の罪の黙想の中で、自分の内にあるあらゆる「乱れた愛着」を発見し、それらを恥じるようになりますが、神さまの愛の

撃を受け、破壊されたところ。現在は比較的落ち着いています。シスターたちがレデンプトール会の神父たちとともに企画するさまざまな活動には、多くの子どもたちが集まっています。シスターたちは、夏に子どもたちと青少年のキャンプを計画しています。

二つ目は、兵士の家族との活動です。私たちは週末に定期的な集会を企画しています。私たちは前線にいる兵士の家族を支援し、彼らを安定させ、彼らの状況に対処する手段を与えることに努めています。これに

働きによって、完全にはありませんが、それらから解放され不偏心という自由を獲得していくことにもなります。これが「イグナチオの観想」を行うための準備となります。

不偏心に至らないと観想の祈りを行うことはとても難しいでしょう。神さまとの対話では自由な心、自由に受け入れる心が必要だからです。

より、トラウマの発症を防ぐことができます。戦死した兵士の親族と過ごす週末は、トラウマ体験を処理するためのものです。彼らは他の人と痛みを分かち合い、精神的・心理的なサポートを受けることができます。その結果、慰められ、強められた状態で日常生活に戻ることが多いのです。

以上が、私たちの現在の活動や、できる限り被災者に寄り添う試みについての簡単な説明です。皆様のご支援に改めて感謝申し上げます！これは大きな信頼と連帯の証です。

皆様、皆様のご家族、鹿兒島教区・小教区共同体のご健勝と皆様の旅路に神の祝福がありますように！

2024年5月
レデンプトール宣教修道女会総長 シスターテオドラ・シユラク

を喜んでいくということが目的でもありません。イエスさまにどこまでも付き従っていくためには、ある力、「動的な衝動」が必要であるとされます。その力とは愛です。

第1週で、罪人であった霊操者は神の愛によって赦しを体験します。「赦された罪人」はその愛に応えるために愛をもって返していくこととなります。その愛は、イエスさまの道を選び従っていくことで返していきます。

参考文献

- ・ペドロ・アルベ、「キリストの道第三巻 第二週 キリストの国」
- ・フランコ・イモダ、Human development (人間の発達)

+KABAYAN SEKSIYON+

Paalala sa mga Tagapagpahayag ng Salita

Noong nabubuhay pa si Papa Benedicto XVI, pinapalalahanan ang mga naatasang magpahayag o mangaral ng salita ng Diyos (VD 59).

Ang sabi niya: Isapuso ang paglilingkod na ito [ministerio O pangangaral].

Ang mga heneriko at abstraktong homiliya na nagpapalabo sa tunay na nais sabihin ng salita ng Diyos ay dapat na iwasan, gayundin ang mga walang kabuluhang paglihis na maaaring magtuon ng atensyon sa nagpapahayag at hindi sa tunay na mensahe ng Ewanghelyo.

Ang tagapagpahayag ay kinatawan ni Kristong siyang dapat na nasa sentro ng bawat homiliya.

Manatiling malapit sa banal na salita.

Ihanda ang homiliya sa pamamagitan ng pagninilay at pananalangin, upang makapagpahayag nang may kombiksyon o pagpapatunay at damdamin.

At higit sa lahat, kailangan munang hingiin ang tulong ng Banal na Espiritu para bigyan ng liwanag ang magpapahayag ng Salita ng Diyos.

Kailangan din ang ipapahayag ay mayroon kaugnayan sa buhay ng nagpapahayag dahil mas makatotohanan ang pagbabahagi ng sariling karanasan tungkol sa ipinapahayag tungkol sa Salita.

Nagbibigay din ng inspirasyon sa mga nakikinig ang pagpapahayag na may kaugnayan sa buhay. Kaya ang mga nagpapahayag ng Salita ng Diyos ay kinakailangan ang tunay na pagsaksi sa mga Salita ng Diyos.

Sa ganitong pamamaraan ng pagpapahayag ng Salita ng Diyos ay nagpapatotoo na mas epektibo kung ang nagpapahayag ay nagiging saksi din sa gawa ng Diyos sa kanyang buhay. Ito ay kailangan na maging buhay ang pagsaksi sa salita at gawa.

At kung ang mga nakikinig ay bukas ang puso at isipan sa pakikinig at pagtanggap sa mga salita na ipinapahayag, mas nagiging makahulugan ang Pagpapahayag at naisasabuhay.

Katesismo Tungkol sa Liturhiya (Fr. Dino Orolfo)

「日本におけるシノドスのつどい」を体験して

純心聖母会鹿兒島修道院 宇田 美智枝

「日本におけるシノドスのつどい」(3月7、8日)には中野裕明司教をはじめ内野洋平神父(司祭団代表)、シスター宇田美智枝(修道者代表)、そして岩崎正幸氏(信徒代表)が教区の代表として参加した。以下に参加者による報告・分かち合いの文章を掲載する。

二つの出会いに

助けられて

鹿兒島と東京の往復は15年ぶりのことでした。「日本のシノドス」への参加の機会をいただき、今改めて感謝しています。何かが恵みとして自分の心に落ちるまでには時間がかかるものです。その意味でこの原稿を書くことも大切な振り返りの時でした。

私にとって鹿兒島教区への派遣は今回が4度目で、4年前からです。その頃は「教区シノドスの実りを求める祈り」が唱えられていましたので、教区シノドスで何が行われたのだろうかという思いはあつたものの、あえて調べることもせず過ごしていました。「日本のシノドス」に参加するように言われた後、

キリスト教にとって聖書の根本にはイエス様は旧約聖書が預言していた救い主(メシア)であるということがあります。であれば旧約聖書はイエス様の存在を志向したものであると言えます。言い換えれば新約聖書は旧約聖書を踏襲し、新約的観点から旧約の意味を問い直したものと考えるでしょう。それゆえに旧約と新約と

何を準備すればいいのかわからず焦っていた時、長崎の会議に出かけて出会ったのが「シノドス」のための祈りでした。おそらく第16回総会に向けての祈りとして、早くから唱えられていた祈りのようですが、私にはとても新鮮に聞こえ、すぐコピーして持ち帰りました。何度も読み直し、味わい、祈るうちに、この祈りこそがシノドスの心だと思ふようになりました。

あるパンフレットには「シノドスのための祈り」という表題の横に「共に歩む教会の心構え」と付記してあり、その通りだと納得。第二ヴァチカン公会議は、教会を「旅する神の民」と言いましたが、まさにこの祈りは、旅する神の

は別物の聖書ではなく、それらの間に断絶は無い二つで一つの「聖書」と考えなければなりません。その具体

《康由神父の聖書教室》74

旧約聖書と新約聖書

例として皆さんがお持ちの聖書の巻末を開けば「新約聖書における旧約聖書からの引用箇所一覧表」を見る

イエス様の福音とは神の国に集約されます。であれば新約聖書とは神の国の先取りとして書かれたもので



2人の話でした。

最初に述べたように、久々に上京した私が京葉線に乗り換えるため、東京駅の雑踏の中で、背後からの「シスター」という大きな声を聞き、何の疑いもなく振り向いたのが、長崎教区のO神父との出会いでした。一瞬にして緊張と不安は消え、京葉線に乗って潮見まで、そして会場のカトリック会館にあつたという間に到着できました。

エマオに向かう2人の弟子は、同伴してくださいました復活の主の気づかないまま導かれたようですが、思いがけない出来事の中に、神様の計らいがあることを経験した「日本のシノドス」でした。感謝のうちに！

シノドスのための祈り
聖霊よ、わたしたちはあなたの前に立ち、あなたの名によって集います。わたしたちのもとに来て、とどまり、一人ひとりの心にお住まいください。わたしたちに進むべき道を教え、どのように歩めばよいか示してください。弱く、罪深いわたしたちが、一致を乱さないよう支えてください。無知によって誤った道に引き込まれず、偏見に惑わされず、あなたが導いてください。あなたのうちに一致を見いだすことができますように。わたしたちが永遠のいのちへの旅を続け、真理と正義の道を迷わずに歩むことができますようにこのすべてを、いつどこにおいても働いておられるあなたに願います。御父と御子の交わりの中で、世々とこしえに。アーメン。

あると言えます。この「神の国」という言葉は旧約聖書には見られませんが、しかしイエス様は旧約の預言の成就です。ということとは神の国を中心として新約聖書の言葉や表現を旧約聖書から汲み取り、そこに旧約の踏襲や批判的継承、そしてイエス様の新しさを見出すことがキリスト教徒の聖書の読み方であると言えるのです。

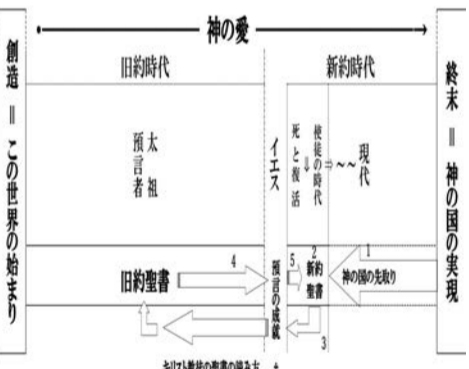
教区経済問題評議会

6月2日(日)午後2時から鹿兒島教区の財政について検討する経済問題評議会が、教区本部を主会場にインターネットも使って開催された。

議案である2023年度「教区会計収支計算書(決算)」が教区会計担当・泉神父より報告され、承認された。

教区会計担当によると「コロナ禍による影響も緩和され、信徒の皆さんからの負担金額にも少しの変化が表れているよう。しかし当年度収支のみでは、ここ数年マイナスが続いているため、さらなる努力・打開策を検討しなければならぬ状況。そのためにも引き続き教区の皆さんのご理解とご協力をお願いしたい」とのことだった。

また中野司教も「小教区にしても教区にしても健全な運営のためには、収入増が必要。つまり教会維持費増が不可欠だ。そのためには信徒一人ひとりが経済的に教会を支えることの大切さに気づかなければならない。特定の人たちが納入額を増やすのではなく、教会維持費を収めてくれる人を増やしていく努力をして欲しい」と話した。



会と催し 7月

- 1日(月) 福者ペトロ岐部司祭と187殉教者
- 2日(火) みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
- 3日(水) 聖トマ使徒
- 4日(木) 栃尾泰英神父叙階記念(1993年)
- 7日(日) 年間第14主日
- 9日(火) 教区司祭会・教区本部・11時
- 10日(水) 中野アカデミー・教区本部・13時30分
- 11日(木) 坂谷豊光神父命日(2006年)
- 13日(土) 朴鎮亮神父霊名(聖ベネディクト)
- 14日(日) 年間第15主日
- 18日(木) 村田源次神父命日(2007年)
- 21日(日) ハヌス神父命日(2022年)
- 22日(月) 年間第16主日
- 23日(火) 第3回集会祭儀司式者養成講座・名瀬カトリックセンター・14時
- 23日(火) 第4回集会祭儀司式者養成講座・教区本部・15時
- 25日(木) レジオマリエ鹿兒島・谷山教会・13時30分
- 25日(木) 聖マリア(マゲダラ)
- 26日(金) 木村敏彦神父命日(2008年)
- 27日(土) ティエン神父叙階記念(2006年)
- 28日(日) 聖ヤコブ使徒
- 30日(火) 福崎英雄神父霊名(聖ヤコブ)
- 30日(火) 濱田盛茂神父命日(2013年)

- 30日(火) 久保芳一神父霊名(聖ルフィーノ)
- 【司教日程】7日聖血礼拝会、10日中野アカデミー、13日カウンセリング講座、16、18日定例司教総会(東京)、28日聖血礼拝会

- 祈りの意向
- 【祈祷の使徒会】
- 病者への司牧的ケア
- 日本の教会 難民

ベトナムの聖母 Lavang祭

=8月11日(日)=

場所：かんまちあ 鹿兒島市浜町2-20

- 16時30分 司教ミサ
- 18時 ロザリオの祈り
- 19時 聖母Lavangの行列 軽食

教区内のベトナム人信者の皆さんと一緒に賛美の祈りを捧げませんか？ 多くの方の参加をお待ちしております。



分かち合いを大切に集い続けて20年

みことばを祈る集いが節目を記念

レナト・フィリッピーニ神父(聖ザベリオ宣教会)の「キリスト教を体験するため」という指針のもと、月に一度開かれていた「みことばを祈る集い」が20周年を迎え、5月28日(火)ザベリオ教会に会員が集まり、レナト神父とともに感謝のミサをささげた。みことばを祈る集いが始まったのは、2004年5月のこと。以来、指導のレナト神父の異動などで同神父が同席しての開催は数えるほどだったが、書面での指導が続けられ、この20年という節目にたどり着いた。教区報では、会員の感想を紹介する。

世話係 高味和子

私は闘病中にイグナチオの霊操による黙想を探していた時、この集いと出会いました。レナト神父さまの「メールでの連絡」という提案に、迷うことなく「はい！」と手をあげて世話係を引き受けました。私にとってミサでいただくご聖体とこの集いが生きる糧であり、自分と人のためにと手をあげました。

いつばいです。

祈りの集い(レクテイオ・デイヴィーナ)において、みことばに触れる、さわることを体験し、絶え間ない祈りの中で日々思い起こされるみことばに生かされ、養われて、主からの愛を周りの人々に伝えられるよう祈りながら、感謝のうちに20周年目を迎えています。

匿名(85歳)

レクテイオ・デイヴィーナに参加して20年、最初の頃は雑念に襲われることもあり、「聖霊きてください」と懇願する有様でしたが、それでも参加し続けて皆さんとともに歩んでまいりました。

みことばとテキストは読めば読むほど心にしみ、分かち合いではさらに多くの気づきをいただきます。みことばに養われ、同伴者イエスを信じ、今では私にとって欠かせない栄養源のレクテイオ・デイヴィーナです。

匿名(93歳)

祈りながら神と語りつつ読む聖書を通して、神の声を耳を傾け、そして神に呼びかける。つまり聖書を、聖書を置いて読み、祈りの心で読むレクテイオ・

デイヴィーナ。この集いに出会って20年になります。信仰生活を支える指針となつていきます。

祈りの後にグループで分かち合いをします。レクテイオで体験したこと、感じたことを自由に話しますが、みことばの味わいが豊かになります。「キリストが実際に語られてきたこと、自分たちに語りかけてくださつておられる」という気持ちになります。

「二人または三人がわたしの名によつて集まるところには、わたしもその中にいるのである。」(マタイ18・20)

この分かち合いこそが、長年にわたり集いを続けら

れてこられた秘訣だと思えます。「みことばを祈る集い」への参加によつて、聖書を毎日読む習慣がつきました。今、インターネットで配信される「日ごとの福音」を使って声を出して読むようにしています。その際は次のことを心がけています。

- ①聖書は何を言っているのか。
- ②この言葉は「私に」何を語りかけているのか。
- ③神は「私に」どうすることを望んでおられるのか。

三教区の教区聖職者が集う

大分カテドラルで合同黙想会

6月3日(月)の夕方から7日(金)の午前まで、大分カテドラルを会場に大分・鹿児島・那覇の三教区合同黙想会が実施された。三教区の司教をはじめ福岡、長崎教区からの数人の



の講話に加えて、1回目の講話の後には参加者は小グループに分かれて、今回のシノドスで用いられている「霊における会話」形式で講話の内容を分かち合つた。また毎日、夕方には聖体礼拝の時間がとられ、充実した祈りの日々を過ごすことができた。

参加者も含め、合計49人(うち鹿児島教区からは14人)が参加した。講師はさいたま教区の山野内倫昭司教。毎日の全員による共同司式ミサと午前と午後の2回

な。お来年の担当は鹿児島教区。



要理

今回はマリア様のことをご考えてみましょう。マリア様は全世界の教会とすべての信者を一つに結び、イエス様と共に人々を神様へ導かれる方です。

マリア様のお働きについて

また教会とすべての信者のために神様やイエス様への取り次ぎの務めを果たしておられることからカトリック信者の母と呼ばれています。マリア様はイエス様が十字架に架けられ死を迎える時に共におられ、イエス様と痛みや苦しみを共にされました。このことから教会はマリア様をイエス様の贖いの業に協力さ

ではマリア様以外にイエス様の母となる女性がいた可能性はあるでしょうか。イエス様の時代では女性が結婚前に妊娠していた場合、石打の刑で殺されてしまった。マリア様はこの死の恐怖を神様に委ね、天使の受胎告知に「お言葉どおり、この身に成りますように」と答えられました。

また聖書を読み、救い主の到来を信じていたからこそご自分に起こった神様の御業とその意味を理解し、それを讃えることができたのです。命をかけて神様を信じる姿勢はイエス様の御受難の先取りと言えませんか。この信仰の深さと強さに神様がマリア様をお選びになつた理由があるのです。